



竹村 浄子 (ピアノ)

Johko Takemura

東京都立芸術高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科に入学。在学中、第60回日本音楽コンクール(毎日新聞社・NHK主催)ピアノ部門第3位入賞。学内にて「安宅賞」受賞。翌年スイスに滞在し、ニキタ・マガロフに師事。第40回マリア・カナルス国際音楽コンクールピアノ部門第3位入賞、併せて審査員特別メダル受賞。第13回シヨパン国際ピアノ・コンクールにてディプロマ取得。同大学大学院音楽研究科修士課程ピアノ科を首席で修了し「クロイツァー賞」受賞。日本シヨパン協会のリサイタルに出演。

1997年、EMIよりCDデビューと同時に本格的な演奏活動を開始。ソロ・リサイタルをはじめ、ソリストとしてオーケストラとの協演、また室内楽、声楽伴奏、二台ピアノなどアンサンブル・ピアニストとしても活動の場を広げ、これまで共演した演奏家は多数、幅広いレパートリーを持つ。また、「(財)地域創造公共ホール音楽活性化支援事業・登録アーティスト」として、全国各地の学校や施設でアウトリーチ活動を行っているほか、「フコク生命パートナー・アーティスト」として、特別支援学校、ろう学校、盲学校、病院でのコンサートも大切な活動の一つとしている。

CDは、EMIより『竹村浄子ブレイズ・シューマン』が2枚、ディスク・クラシカ・ジャパンより『祈り〜グルダのアリア』、T&Kエンタテインメント(販売元：日本コロムビア)より『ウィーンの夜会』のほか、声楽伴奏のアルバムが複数リリースされている。「温かく透明な音色で作曲家の心象を描き出すピアニスト」と評され、幅広く活躍している。

竹村浄子オフィシャルウェブサイト <http://j-musik.com/johko-t>

ゲスト

平澤 仁 (ヴァイオリン) *Jin Hirasawa*



5歳よりヴァイオリンを始め、1981年東京藝術大学音楽学部に入學。1985年同大学院に進む。同年、第54回日本音楽コンクール(毎日新聞社・NHK共催)に入選。1986年より国際ロータリー財団奨学生として、ジュリアード音楽院に留学。1988年、同音楽院の修士課程を修了。帰国と同時に東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任。以来、二十年余りに渡って定期演奏会、新国立劇場のオペラ、バレエ公演などの重責を果たした。

ソリストとしても、メンデルスゾーン、チャイコフスキー、コルンゴルドなどのヴァイオリン協奏曲を演奏している他、1991年より定期的に東京文化会館にてリサイタルを開催し研鑽を重ねた。そして2014年の渋谷さくらホールでのリサイタル(ピアノ・竹村浄子)は特に好評を博した。

室内楽の分野でもアンサンブル・エスパスのメンバーとしての演奏会の他、各地の音楽祭に出演。マルタ・アルゲリッチ、イヴリー・ギトリス、ポール・メイェら内外の著名アーティストとも共演している。

これまでに、原田幸一郎、田中千香土、広瀬悦子、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫の各氏に、また室内楽をヤコブ・ラタイナー、サミュエル・ローズの各氏に師事。

ナミ・レコードより発売されたソロCD「虚空はるかに」(WWCC7380)は、各方面で高い評価を得ている。使用楽器はストラディヴァリウスやガエルネリ・デル＝ジェスと並び称されるカルロ・ベルゴンツィ(1736年)。

現在は、これまでの経験を生かした各オーケストラへの客演に加え、人気テノール歌手・錦織健とのコラボレーションなど多彩なソロ活動を繰り広げている。平澤仁オフィシャルウェブサイト <http://j-musik.com/jinvn>